

コロナ禍で過ぎた高校三年間 次のステージでより大きく羽ばたけ

「自分らしさを全開の毎日」

三年一組 高橋 昂甫

一組を四字熟語で表すと「桜梅桃李(おうばいとつり)」。一番相応しいと思います。この四字熟語は、自分が現代文の宿題で意味を調べた言葉です。言葉の意味は、桜・梅・桃・李(スモモ)がそれぞれ独自の花を咲かせるように他人と比較することなく自分らしく生きる」とと辞書に書いていました。この意味を読み思ったことはただ一つ。「これ一組のことやん」そんな感じです。一組はとても個性豊かで面白い人達の集まりでした。放課後は部活動で汗を流す人や、資格試験に向けて教室で勉強に励む人、また休み時間になると教室で走り回る人、推しのグループの曲を流す人、友達を肩車する人、朝からSSまでぼろぼろ寝ている人……。もはや独自の花を咲かせまくっている状態でした。しかし休み時間が終わると、授業が始まると雰囲気が一転し、静かになります。静かすぎる故に寝てしまう人もちらほらいました。ですが僕はこのクラス、とても良いクラスだと思っています！なぜならクラス全体で取り組みとなる、一人ひとりが役割に応じて力を発揮していたからです。特に最後の八工祭では責任感のある頼れる団長を筆頭に、今まで以上にクラスが団結していました。



活の良い思い出の一つになりました。最後に、担任である荒川先生、副担任の山田先生をはじめとした先生方、三年間本当にお世話になりました。

「良い意味でアホになれ！」

三年二組 上本 琉生

入学時のクラスの第一印象は、今では想像できないくらいに「とても静かで落ち着いている」でした。一年生、二年生と様々な行事を通して、時間が経つほどに仲が深まり「個性豊かだ」とにかく賑やか「な今の二組の姿が確立していききました。三年生になり、就職・進学に向けて本格的に動き出しました。全員が真剣に進路に向き合う姿はいつもの二組とは一味違うものでした。最後の八工祭では、みんな得意を出し合っパフォーマンスをつくりあげ、より一層クラスが団結しました。



「怒られ成長した二組」

三年三組 鳴村 颯真

三組は優しい人や、個人的な人が多く、とてもまとまりのあるクラスでした。入学時は、新型コロナウイルスの影響でスタートが遅れ、クラス一人一人がどんな人なのか分からず上手くやっていたのか心配でした。しかしいつの間にか自然と良い雰囲気になっていきました。



宇野先生には、三年間で多くの迷惑をかけてしまいました。怒られる事も多々ありましたが、HRのゴミ分別が出来ておらず、ゴミ箱が撤収されたこともありました。提出書類を忘れた時、クラスルールの破った時など様々な事で怒られました。しかしそのおかげで八工祭などの行事では全員がまとまり、取り組む事が出来たと思います。

卒業を迎えた今になって考えると、社会に出てから当たり前に出来ないといけない事が、出来ていなかったから怒られたのだと思います。私たちがこれからの事を考えた宇野先生の優しい声です。ありがとうございます。

「個性輝くクラス」

三年五組 山本 大地

私達五組は個性的な人が多いクラスです。一見するとまとまりの無いクラスのように思えますが、それで良いんだと思います。例え仲の悪い人達がいたとしても同じ目的・目標のために協力し合える協調性、そこが五組の良さだと思います。三年生、最後の八工祭では、一位という目標に向かって全員が最善を尽くし、努力し協力しました。結果は二位。悔しくてたまりませんでした。悔しさを乗り越え、最後の五組からは出ない熱を感じました。その努力し、協力した事だけでも十分に価値あるものだと思います。



これからひとりひとりが道に進んでいきますが、この五組で学んだことは全員同じであって変わりませぬ。それぞれの道の中でいつか思い出、懐かしいと思ってしまう思い出です。この三年間、たくさんの出来事がありました。最後まで育て、見て下さった

「成長」そして「感謝」

三年四組 木下 遼



卒業を前にし、3年間を振り返ると「成長」と「感謝」に溢れた時間でした。私は八工ラグビー部に憧れて入学しました。練習は厳しく、ついていくのに精一杯でしたが、愛される指導とチームメイトのおかげでやり切ることが出来ました。

また、私たちの学年は入学式直ぐにコロナで休校になり、行事も中止や縮小が多く、クラスの仲間と交流することがなかなかありませんでした。修学旅行も当初の9月から12月に延期になりました。やっと行けた四国では、サイクリングやSUPなどの体験をきっかりと行きました。

この三年間は一人で作り上げたわけではなく、かけがえのない仲間、先生、家族の支えあってのことです。この絆と思いは色あせすることのない宝になると信じています。ありがとうございます。

